SHOW-HEYシネマルーム

★★★★

宝島
(HERO'S ISLAND)

2025年／日本映画
配給：東映、ソニー・ピクチャーズエンタテインメント／191分

2025（令和7）年9月23日鑑賞　大阪ステーションシネマ

Data　2025－90

監督：大友啓史
脚本：高田亮、大友啓史、大浦光太
原作：真藤順丈『宝島』（講談社文庫）
出演：妻夫木聡／広瀬すず／窪田正孝／永山瑛太／塚本晋也／中村蒼／瀧内公美／栄莉弥／光路／尚玄／ピエール瀧／木幡竜／奥野瑛太／村田秀亮／デリック・ドーバー

みどころ

『宝島』と聞いて、私はすぐに小学生の頃にむさぼり読んだ少年少女文学全集の1冊、ロバート・ルイス・スティーヴンソンによる子供向け冒険小説『宝島』を思い出したが、本作の原作はそれではなく、真藤順丈の直木賞受賞作だ。しかし、英題が『HERO'S ISLAND』であるのに対し、邦題はなぜ『宝島』に？

本作は1952年から1972年まで米国領だった沖縄の問題点（悲劇）と、そこで生きた3人（4人）の若者たちの生きザマを描く青春群像劇だが、なぜ沖縄が「宝島」なの？まずは、そのことの意味をしっかり考えたい。

沖縄戦とひめゆり部隊の悲劇は有名だが、米軍領となり米軍基地が建設された戦後の沖縄が、1972年に“本土復帰”するまでの屈辱の歴史は？とりわけ、1952年の嘉手納基地襲撃事件とは？また1970年大阪万博に湧く本土と好対照をなす、12／20に起きたコザ暴動とは

？

嘉手納基地襲撃事件で消えてしまった“英雄”と彼を慕う3人の主人公たちは、以降何を目標に生きてきたの？そして、コザ暴動の中、“ある物”と“ある目的”を持ったヤクザと刑事はそれぞれどんな思いで向き合い、どんな行動を？その結果、超異例の191分の長尺となった本作のラスト20分で明かされる「あの日、英雄が消えた。失踪に隠された秘密と、20 年後に明かされる衝撃の事実―」とは？

本作はやたら論点が多く解釈も難しいが、本作と同じく異例の長尺で、異例の大ヒット中の『国宝』（25年）の分かりやすさ、単純さと対比させながら、1952年から1972年までの超多共生だった沖縄の20年間を学習し、しっかり論点を整理したい。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■原作は真藤順丈！スティーヴンソンの『宝島』に非ず！■□■

原作が『宝島』と聞くと、私はすぐに1883年に出版されたロバート・ルイス・スティーヴンソンによる子供向け海洋冒険小説『宝島』を思い出す。小学生時代にはこの手の少年少女文学全集を片っ端からむさぼり読んだものだ。しかし、本作の原作はその『宝島』ではなく、2018年に出版され直木賞を受賞した、真藤順丈の同名小説だ。そんな本作の時代設定は第2次世界大戦後、アメリカ占領下にあった沖縄の1952年から本土復帰までの20年間。そんな本作のタイトル（邦題）がなぜ「宝島」に？

もっとも、本作の英題は『HERO'S ISLAND』。そして、朝日新聞の一面切り抜きの広告では、「激動の時代を駆け抜けた若者たちの、衝撃と感動のエンターテインメント超大作」と書かれている。なるほど、なるほど。そんな映画なら、この英題がピッタリだが・・・。

■□■舞台は1952年の沖縄。４人のヒーローたちは？■□■

私が生まれたのは1949年1月。そして、本作の冒頭の舞台は、ひめゆり学徒隊の悲劇と1945年8月の敗戦から7年後の1952年の沖縄だ。そこには、1951年のサンフランシスコ講和条約と日米安保（旧）条約に基づき、アメリカ軍の基地が作られていた。1952年の沖縄はもちろん日本領ではなく、アメリカ領の時代だから、基地が厳重に管理されていたのは当然だ。

本作冒頭、その基地内から物資を奪い住民らに分け与える「戦果アギヤー」と呼ばれる若者たちの傍若無人な振る舞い（犯罪行為？）が描かれる。彼らのリーダーとしてみんなを引っ張っていたのはオン（永山瑛太）。その下で働き、固い友情で結ばれている男女が、グスク（妻夫木聡）とレイ（窪田正孝）、そしてヤマコ（広瀬すず）たち、幼馴染の3人の男女だ。まるで織田信長、豊臣秀吉時代の大盗賊（大義賊？）、石川五右衛門のような「戦果アギヤー」の活躍は、沖縄の住民たちに大きく寄与していたが、ある日のある大胆な“嘉手納基地襲撃”の結果として、銃を持った米軍のジープに追いかけられ、追い詰められたら、「戦果アギヤー」に結集する若者たちは万事休す！？

■□■あれから６年、グスクは刑事に！各自の立ち位置は？■□■

1952年の「戦果アギヤー」による基地襲撃から6年後の1958年。あれからオンの姿を見た者は誰もいないから、オンはきっとどこかの山の中で、のたれ死に？そして、嘉手納基地襲撃事件で逮捕され刑務所に入ったレイは出所後ヤクザに。ヤマコは米兵相手のAサインバーを切り盛りするチバナ（瀧内公美）の下で働きながら勉強し、教師になっていた。それに対して、グスクはなんと刑事になっていたが、それは一体なぜ？

オンの恋人だったヤマコがオンと約束した通り教師になったのはベストな選択だが、ずっとオンの帰りを待っていても、オンとの結婚は不可能なのでは？また、レイは刑務所内でもオンに関する情報を収集していたそうだ。グスクが刑事になったのも、オンを探す手

がかりを探すため・・・？しかして、この 3 人にとってオンの存在は何だったの？3 人はなぜそこまでオンの“その後”にこだわって生きているの？

■□■殺人の容疑者が米兵なら？沖縄は治外法権？■□■

グスクが刑事になったのはオンを探す手がかりを探すためだが、警察本来の仕事はたくさんある。したがって、ある日、女性の変死体が発見されると、グスクは相棒の徳尚（塚本晋也）と共にその捜査に着手し、1 人の不良米兵を容疑者として特定することに。ところが、MP（Military Police：憲兵）が容疑者を引き取ってしまえば、沖縄の警察は以降一切手出しができなくなってしまうから、沖縄の警察って一体ナニ？米軍は沖縄では治外法権なの？グスクや徳尚が沖縄警察の無力感に苛まれたのは当然だが、そこに米軍高官アーヴィン・マーシャル（デリック・ドーバー）と通訳の小松（中村蒼）が現れ、グスクの今までの行動を評価し、米軍の“トモダチ＝スパイ”にならないかと持ちかけられると、グスクは？

本作の主人公中の主人公はこのグスク。そして、本作では 1952 年の嘉手納基地襲撃事件から 1972 年に沖縄が本土に返還されるまでの 20 年間が描かれたうえ、ラストにはあっと驚く、オンの失踪に隠された秘密が明かされるから、それが最大の注目点だ。しかし、そこに至るまでに何度も、グスクが選択を迫られる姿が登場するので、それにも注目！

刑事になるのを選んだのがグスクの最初の選択なら、MP の“トモダチ＝スパイ”になったのがグスクの 2 度目の選択だ。その選択によって、グスクはオンの失踪の秘密に近づくことができるのだろうか？

■□■密貿易団や沖縄ヤクザの動きは？米軍や MP の動きは？■□■

本作は「刑事モノ」ではないから、グスクと徳尚の捜査のあり方そのものには興味も関心もないが、沖縄警察のグスクと徳尚の周りには、嘉手納基地襲撃事件でオンと共闘していた密貿易団クブラのリーダー、謝花ジョー（奥野瑛太）や、沖縄ヤクザの中で対立しているコザ派 VS ナハ派の面々が次々と登場してくるので、その姿に注目！また、米軍関係者として、前述の高官のアーヴィン・マーシャルや通訳の小松の他、CIA 要員のダニー岸（木幡竜）まで登場してくるので、その展開にも注目！MP のトモダチ＝スパイになる選択をしたグスクが、わずかな手がかりを頼りに、オンが消えた日、一緒に基地に侵入した謝花ジョーを訪ねると、「あの夜、オンは予定にない戦果を手に入れた」との供述を得たが、その意味は？

他方、グスクが刑事としての活動を続ける中、ヤマコが教壇に立った宮浦小学校の校庭に、ある日、米軍戦闘機が墜落し、爆発したから被害は甚大だ。また、やりきれない思いで、ただ泣くことしかできないヤマコに対し、1 人の花売りの孤児が近づいてきて、元気づけようとしたが、これが後にカギを握る少年ウタ（栄莉弥）との出会いだから、そのストーリーにも注目！

■□■沖縄を返せ！基地反対闘争の高揚から 1972 年へ■□■

私が大阪大学に入学し、四国の松山から大阪に移り住んだのは 1967 年 4 月。そこで最初に受けた“洗礼”は、法学部で同じクラスになった大阪出身の女子学生からの「坂和君、

○○について、△△についてどう考えてる？」との質問だった。都会では「安保闘争」なるものがあることは知っていたものの、その実態に触れることがなかった私は、「裁判問題研究会」というサークルに入ったことをきっかけに、学生自治会のクラス委員に立候補し、選任され、以降学生運動に熱中することになった。

入学当初の主要なテーマは学内問題だったが、ベトナム戦争が激化するにつれて“ベトナム戦争反対”が大テーマになり、続いて、“北爆”つまり沖縄の米軍基地からの B-52 爆撃機による北ベトナムへの爆撃が激化する中、その反対闘争が盛り上がり、それが基地反対闘争へ、そして「沖縄を返せ！」の大合唱となり、結局それが 1972 年の沖縄の本土返還に結びつくことになった。

1952 年の嘉手納基地襲撃事件でリーダーのオンを失ってから約 20 年。ヤマコは沖縄市民の 1 人として「沖縄を返せ！」のデモ等にも参加していたが、それぞれ自分流のやり方でオンの手がかりを探し続けていたグスクとレイにとって、「沖縄を返せ！」の政治闘争に興味がなかったのは仕方がない。しかし、そんな時代の流れの中、覆面を被った謎の男たちによる“アメリカー狩り”事件が多発し、その背後にはオンがいるのではないかと米軍が疑い始めると・・・？また、グスクはCIAによる“拉致”、“拷問”という過酷な試練を受けながらも、なお執拗にオンの行方を追っていたが、レイはいつの間にかコザ派 VS ナハ派のヤクザ抗争から身を引き、姿を見せなくなることに。一体レイはどこに消えたの？そして、何よりも嘉手納基地襲撃事件の後、行方がわからなくなってしまったオンは、ひょっとして今も生き続けているの？それとも・・・？

■□■1970 年のコザ暴動に注目！大阪万博と好対照！■□■

2025 年 4／13 に開幕した「2025 大阪・関西万博」は 10／13 の閉幕が迫る中、人気が沸騰し、当初は達成を危ぶまれた入場者目標、売上目標は十分達成可能となっている。1970 年万博の遺産は、万博公園や太陽の塔の形で残され、55 年後の今も国民の中に定着しているが、さて 2025 年万博で大きな話題となった「大屋根リング」や「ミャクミャク」のキャラクターはいつまで語り継がれるの？本作後半のハイライトは、日本（本土）が大阪万博

に湧いていた1970年の12／20未明に沖縄で起きた“コザ暴動”になる。これは9／18に糸満町で起きた主婦が米兵に轢き殺された事件を契機として自然発生的に起きたものだが、その規模とその騒乱ぶりに注目！

もちろん、これは現実に起きた事件だから、学生運動に熱中し沖縄問題にも強い関心を持っていた私はよく知っているが、本作ではその騒動に便乗するかのように、明確に“あるもの”と“ある目的”を持って基地内に侵入してきたレイと、群衆たちと共に基地内に乱入してきたグスクの2人が向き合い、レイがグスクに対して、「一緒にやらんか？」と問いかけるシークエンスになるので、それに注目！グスクはレイのそんな勧誘に乗っていくの？それとも・・・？

1995年1／17の阪神淡路大震災の直後の同年3／20に東京都心で起きた「地下鉄サリン事件」では、初めて“サリン”なる毒物が日本中で注目されたが、1960年代後半のベトナム戦争当時、有名になっていた毒ガスとは？また、今レイが手に持っている“ある物”とは？そして今、彼が企んでいる“ある目的”とは？

■□■失踪に隠された秘密と、20年後に明かされる衝撃の事実とは？■□■

2025年9／26付朝日新聞は、6／6に公開された映画『国宝』（25年）が「『封切りがピーク』覆す興収 右肩上がり」となり、「8／15に興収100億円を突破した」ことを報じると共に、その原因が、「親友兼ライバルの切磋琢磨　源氏物語に通底」「SNS　主演ファン以外にも波及」等にあると分析した。私はあえて同作を無視し続けているが、興味深いのは、忍耐力が乏しくなった昨今の日本の若者が、175分という異例の長尺となった同作をすんなり受け入れたことだ。そんな“実績”をバックとして、191分という近時の邦画では超異例の長尺とされた本作も、9／19の公開から大人気を呼んでいる。

私が感じた本作最大の難点は、主人公たちが喋る（叫ぶ？）沖縄弁（言葉）が聞き取りにくいことだが、191分という長尺にされた最大の理由が、本作ラストの「あの日、英雄が消えた。失踪に隠された秘密と、20年後に明かされる衝撃の事実―」にあることを考えると、本作をそんな構成にしたことの是非は？

「20年後に明かされる衝撃の事実」とはもちろん、1952年の嘉手納基地襲撃事件以降忽然と姿を消してしまったオンにまつわる秘密だが、それを解き明かすキーマンが、本作後半に孤児として登場するウタになるから、その点に私はビックリ！スクリーン上にウタが初登場した時のウタとグスク、レイ、ヤマコの3人との年齢差を考えると、ウタがヤクザ志向の強まった青年期に達した頃には、妻夫木聡扮するグスクも、窪田正孝扮するレイも中年おじさんに、そして広瀬すず扮するヤマコも中年おばさんになっているはずだ。映画がリアリティを追及するなら、それを反映して3人の主人公たちにもそれなりのおじさん化、おばさん化が必要なのでは？

私にはそんな思いが強かった上、本作のラスト約20分で描かれる「あの日、英雄が消えた。失踪に隠された秘密と、20年後に明かされる衝撃の事実―」はイマイチ・・・？

2025（令和7）年9月26日記